



Information_7



人獣共通感染症のおはなし

人と動物の間では、共通の感染症があり「人獣共通感染症」や「人畜共通感染症」、「ズーノーシス」などと呼ばれています。正しい知識をもって、これらの感染症を防ぎましょう！

動物から人へ感染する病気

日本国内で問題となる人獣共通感染症の数は、20～30種類といわれています。

<代表的な感染症>

狂犬病	…すべての哺乳類に感染。発症後はほぼ100%死亡。
瓜実条虫症 <small>うりぎねじょうちゅうしゅう</small>	…ノミが媒介。幼児で下痢や腹痛を起こす。
猫ひっかき病	…ノミが媒介。バルトネラ菌に感染した猫に噛まれたり、引っかかることで感染。発熱やリンパの腫れが起こる。
皮膚糸状菌症	…カビの一種。頭部の脱毛やフケ、体部ではかゆみを伴う紅斑、水疱、膿疱ができる
レプトスピラ症	…保菌動物（主にネズミ）の尿から感染する。発熱や頭痛、悪寒など風邪の様な軽い症状から、黄疸、出血、腎障害を伴う重症型まである

感染を予防するために

人獣共通感染症を予防するために、正しい知識をもって動物たちと接するよう心掛けましょう。つづく →

①正しい知識をもつ

共通感染症について、感染源や感染ルートを知ることによって、感染を予防・回避することができます。



②衛生習慣を身につける

- 動物を触った後や、世話をした後は手を洗う
- 過剰な接触を避ける（口移しの給餌、食器の共用など）
- 乳幼児が動物と触れ合う時は、大人が手洗い等を教える

③衛生的な日常管理

- 飼育場所を清潔に保つ
- 便や尿はすぐに片づける



手洗い



清潔



適切な食事



病気予防



良い習慣



④動物の健康管理

- 適切な量の衛生的な食事と水を与える
- 常に健康状態に注意する
- 感染症や寄生虫の予防をする
- 病気やケガに気付いたら、早めに治療を受けさせる



獣医師による定期健診

スタッフより



人獣共通感染症には、動物は病原体を持っていても、症状が何も現れない病気もあります。必要以上に怖がることはありませんが、やはり過剰すぎる接触は気をつけたいですね。万が一、噛まれたり、引っ掻かれた後に発熱や傷口の腫れ、化膿など症状が出た場合は早めに受診し、医師に動物を飼っている旨を伝えましょう。

